

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

新発田市長 二階堂 馨

市町村名 (市町村コード)	新発田市 (154206)
地域名 (地域内農業集落名)	豊浦地区 ^㉓ (池ノ端、戸板沢、動木橋、横掘、大伝本村、下中ノ目)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月11日、11月20日 (第1回)(第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【池ノ端】 耕作者の高齢化が進む中、域内の地域農業を継続するため後継者の育成が急務となっている。 【戸板沢】 農家組合戸数6戸のうち5戸が既に全面委託しており、残る1戸は高齢で後継者は未定である。農道管理も農家組合ではなく自治会が実施するなどの状況であり、今後、耕作放棄地が増えることが懸念される。 【動木橋】 農家組合戸数5戸のうち3戸が70歳以上であり後継者は未定である。現時点では耕作者のいずれもが健康であり、現状維持を希望しており、特段の課題はない。 【横堀・大伝本村】 現在の耕作者5名のうち、70歳以上の農業者はいずれも後継者は不明であるが、今後しばらくは営農を継続する意向である。また、他の農業者も多少の面積拡大も可能とのことであり、他集落からの入作者の存在も踏まえると、当面の間は地域農業維持は可能と思われ、特段の課題はない。 【下中ノ目】 現状農地は作業効率も悪く、管理に時間がかかることが問題のため、基盤整備が進むことを期待する。 【主な作物】水稻、飼料用米、備蓄用米、麦、大豆、飼料用トウモロコシ、ブロッコリー、キャベツ、枝豆
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

【池ノ端】 ・現耕作者が経営規模を拡大し、地域の農地を引き受けていく ・有志で法人化、あるいは、複数集落で広域営農法人化(法人等の合併)を検討し、経営規模を拡大していく 【戸板沢・動木橋】 ・現耕作者が経営規模を拡大し、地域の農地を引き受けていく

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	215.68 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	215.68 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	— ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針 【池ノ端・動木橋】 大部分の現耕作者の意向を確認することができたが、一部の関係者の合意は取れていないため、今後も継続して協力を求めている。 【戸板沢】 基盤整備事業と連携し、地域ぐるみで協力していくことについて、農地の集積・集約化の意思統一ができている。
(2)農地中間管理機構の活用方針 【戸板沢・動木橋、下中ノ目】 今後、新たに農地の受委託が生じた場合は活用することを基本とする。 【横堀・大伝】 今後、新たに農地の受委託が生じた場合は活用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針 ・三悠乙見江地区(西蓑口、池之端、下中ノ目、竹ヶ花、ニツ堂、切梅)は、既に基盤整備済であり、法人等の担い手を中心とした営農が図られている。 ・中浦第1地区(乙次、吉浦、三ツ樹、中ノ目新田)、第2地区(下中ノ目、乗廻、福島)、豊浦地区(乙次、大伝本村、大沢、万代、岡屋敷、月岡)は、今後、基盤整備が計画されている。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針 効率的かつ安定的な農業経営を行う多様な経営体の確保・育成のため、認定農業者制度、認定新規就農者制度及び各種支援制度を活用するとともに新潟県農業経営・就農支援センター、北新潟農業協同組合等と連携して研修・指導や相談対応等に取り組む。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 農業機械の共同化や作業委託について、今後検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨六次産業化	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組方針】 【池ノ端】 スマート農業(ドローン等の導入による農作業の負担軽減や効率化)、農業用施設の集約化(共同利用の乾燥調製施設) 【戸板沢・動木橋】 スマート農業(ドローン等の導入による農作業の負担軽減や効率化)				